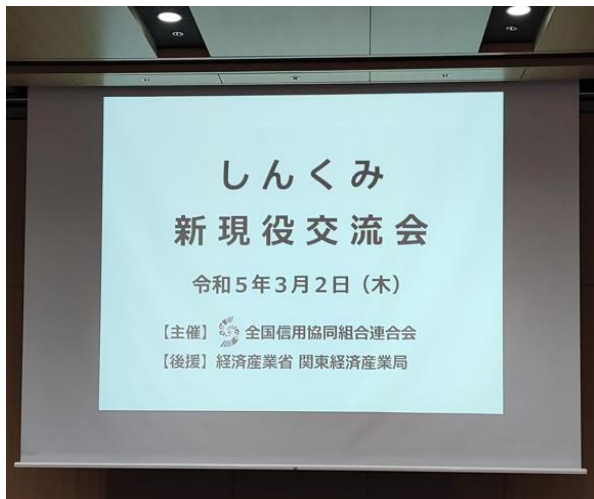


# 2022年度 第2回しんくみ新現役交流会



2023年3月2日(木)東京都中央区京橋の全国信用組合連合会ビル(以下、全信組連)で「しんくみ新現役交流会」(主催:全国信用組合連合会、後援:経済産業省関東経済産業局、協力:一般社団法人 新現役交流会サポート(SKSS))が開催されました。

単独開催の信用組合が増加している中、この「しんくみ新現役交流会」は現時点では単独開催が難しい信用組合や、このタイミングで企業支援を望む取引先企業に対し、全信組連が全国の信用組合に声かけして開催するものです。なお、今年度から開催を年2回に増やしており、昨年9月に続き2回目の開催となります。

今回は支援を希望される会社11社が参加され、新現役も延べ76名という多くの方が参加されました。10社は面談人数上限の7名、1社は6名の面談が生まれ、それぞれ熱心な20分間の議論が展開されていました。

また参加11社のうち9社はオンラインで、2社はリアルで面談を行いました。事前に新現役と参加企業にYouTubeで“交流会当日のポイントや留意点”を説明していますが、リアル面談の社長には改めて幅広い参考事例や考え方について新現役交流会サポート(SKSS)から、説明させていただきました。



面談終了後にSKSから複数の新現役に感想や新現役にエントリーした理由、ご自身の思い、などお聞きしましたところ、快く応じてくださり、今後参加される方々への参考になるお話を伺うことができました。

- ・ 今月定年を迎えるので、新現役交流会は初参加。資格もなく、これから何をして良いかまだ解らないが、技術屋として中小企業の現場で役に立つ支援がしたい。
- ・ 昨年から新現役交流会に参加し、しんくみ新現役交流会は初参加。自分がどこまで出来るかまだ自信がない。自分以外の仲間は悠々自適の生活をしていてなぜ今更と言われるが、経験を活かして役立つ仕事がしたい。
- ・ 新現役交流会に参加して3年目。地元で会社を経営しているが、しんくみ新現役交流会ではいろんな地域の会社経営者に会え、実情をお聞きできて参考になる。自社の仕事を続けながら他社の支援も行っていきたい。

- ・新現役交流会に参加して2年目。50代で早期退職し、専門家登録をして各社を支援してきた。面談した企業の8割はマッチングしている。

新現役として経験の違いはあるものの、共通して「自分が一方的に話し過ぎた」「作成した資料が他の人と比べて見劣りした」等の反省も聞かれ、志の高さとともに、次の面談に向けた意欲が感じられました。

担当信用組合の支店長、本部の担当者等も同席して社長をサポートしており、当事者の企業、新現役だけでなく、主催者である金融機関が“自分ごととして一緒に考える機会として”、とても大きなメリットがあることを実感しました。全信組連は新現役交流会の三者対等の考えに基づいて交流会運営に全力で取り組んでおられ、高いマッチング率の理由を改めて認識できました。



また「新現役交流会は職員教育の一環」としても捉えており、今回も全信組連の若手職員が対面の面談ブースで熱心にメモを取っていました。

以上のように、全信組連は「新現役交流会は取引先との関係強化、信組職員の人材育成に資するとして、信用組合業界の取引先の伴走支援において、取引先・信用組合ともに高い

効果が期待できる仕組み」と位置付けています。そのため、全国展開に向けて積極的に動かれており、参加組合が今後一層増えることが期待されます。

全信組連、SKSが連携して働きかけてきた中小企業庁でも全国展開を後押しする動きがあり、今年もSKSとしても、事前ヒアリング、二次面談も含めた質の高い新現役交流会の実施をサポートする責任を痛感しました。

文＝名古屋